

イーブック白書 Vol. 5**Scholarly eBooks:****Understanding the Return on Investment for Libraries****学術書としてのイーブック
図書館における投資効果 (RoI)
を理解する****WHITE
PAPER
Vol. 5**

学術書としてのイーブック: 図書館における投資効果 (RoI) を理解する

図書館にとって、電子版の学術書籍 (以下イーブック) を導入し、その投資効果 (Return on Investment, 以下RoI) を評価することは、図書館によっても、また個人によっても考慮すべき要素が異なり難しいとされています。RoIは、図書館があるリソースに投資する際に、その効果を定量化して評価したり、あるいは複数のリソースを比較したりするためのパフォーマンス指標として定義できます。単に出していく金額 (投資) に対し、入ってくる金額 (収入) の問題に思われるかもしれません。しかし、導入したリソースが機関にもたらした総合的な価値を測定するのは難しく、その理由としては、以下のような考慮すべき要素が関わってくるからと考えられます。

- ▶ ライブラリアンと研究者の時間節減
- ▶ いつでもアクセスし、オンラインで検索できる利便性
- ▶ 研究成果と教育上の効果
- ▶ 電子リソースの使用による図書館スペースの節約

RoIは、機関においてコレクションを継続的に拡充するための根拠となったり、既存のリソースに優先順位を付けたりする材料として活用できると言えます。

本レポートでは、学術機関や専門図書館におけるイーブックの現状、トレンドや課題について、パブリッシャーズ・コミュニケーション・グループ (以下PCG) とシュプリンガーが概説します。さらに、今後イーブックの状況に変化があった場合には、イーブックのRoI測定に対して影響が予想される点にも触れられています。

PCGは専門家に加え、イーブック・コレクション導入の責任者であるライブラリアンにインタビューしました。彼らの意見と、ライブ・バリュー・プロジェクト (Lib-Value Project) の調査やジョイント・インフォメーション・システムズ・コミッティ (JISC)、および大学・研究図書館協会 (ACRL) の見解が本レポートのベースとなっています。また、この調査にあたり貴重なご意見をくださった以下の皆様に感謝の意を表します。

ご協力いただいた専門家の皆様 (敬称略)

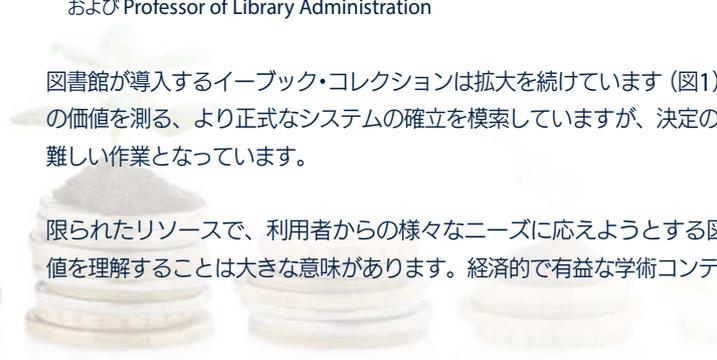
- ▶ **ドナルド・W・キング** (Donald W. King)、テネシー大学およびブライアント大学 Distinguished Research Professor
- ▶ **スー・ポランカ** (Sue Polanka)、ライト州立大学図書館 Reference and Instruction 責任者
- ▶ **キャロル・テノピア** (Carol Tenopir)、テネシー大学ノックスビル校情報科学部教授、コミュニケーション情報学部ディレクター、および情報コミュニケーション研究センターディレクター

ご協力いただいたライブラリアンの皆様 (敬称略)

- ▶ **エムレ・ハサン・アクバイラク** (Emre Hasan Akbayrak)、中東工科大学図書館 アソシエイト・ディレクター
- ▶ **サンドラ・クラムリッシュ** (Sandra Crumlish)、聖ジュード・メディカル コーポレート・メディカルリサーチライブラリー マネージャー
- ▶ **ナンシー・ギブス** (Nancy Gibbs)、デューク大学図書館 購買責任者
- ▶ **アルムデナ・パスキューアル・デル・ポビル・バルデネブロ** (Almudena Pascual del Pobil Valdenebro)、セビリア大学図書館 プロセス・サービス責任者
- ▶ **ティナ・クルザストフスキー** (Tina Chrzastowski)、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 化学ライブラリアン
および Professor of Library Administration

図書館が導入するイーブック・コレクションは拡大を続けています (図1)。ライブラリアンはコレクションの価値を測る、より正式なシステムの確立を模索していますが、決定のベースとなる先例がないことから難しい作業となっています。

限られたリソースで、利用者からの様々なニーズに応えようとする図書館にとって、イーブックの価値を理解することは大きな意味があります。経済的で有益な学術コンテンツであると評価できれば、図書



館は購入するリソースに優先順位を付け、機関と利用者に対し図書館の価値を示すことができます。電子ジャーナル同様、イーブックが世界中の図書館にとって当たり前の存在になる前に、共通の課題とその解決策を見出す段階が必要です。この動きは実際に始まっていて、ライブラリアンの間では、機関のイーブック利用に関するデータを入手し、将来の購入決定と起こりうるアクセス上の問題を評価する報告が増えています。利用統計から見えてくる現状を説明するために、利用者からのフィードバックはますます重要になっており、そのフィードバックによって、ライブラリアンは図書館のリソースが機関にもたらす効果をより深く知ることができるようになります。しかし、今後はよりはっきりと、詳しいチャプター別の評価や、イーブックのCOUNTER準拠の利用統計を提供し、ビジネスモデルやアクセスの提供方法にさらなる柔軟性が必要であることを出版社に示すべきと思われます。

この調査からわかることは、イーブックの投資効果 (RoI) の評価は測定可能であり、取り組むに値するということです。そして、最良のアプローチを見つけることが最大の課題です。

イーブック概説

急浮上するイーブック

出版業界で話題をさらっているイーブックですが、実際に多くの図書館が導入を開始したのはごく最近のことです。ここでは、世界の図書館におけるイーブックの導入状況と分析をご紹介します。

イーブックが学術市場で大きく成長するトレンドを示したのは、シュプリンガーが業界初のイーブックを2006年に手がけて以来、ここ5～6年のことです。かつて電子ジャーナルがそうだったように、イーブックは印刷出版の世界に大きな影響を与えると予想されます。実際、トルコの中東工科大学図書館は、電子化をいち早く進め、2003年にイーブックを導入してから12万冊以上のコレクションを築いています。

2011年にPCGが実施した年次図書館予算調査では、学術機関、医療系機関、政府系機関、および企業の図書館など世界の509機関が調査に協力し、図書館予算のトレンドと将来予測が明らかになりました。ライブラリアンには全図書予算の開示が求められ、そのうち予算に占めるイーブックの割合は下図に示されています (図1)。

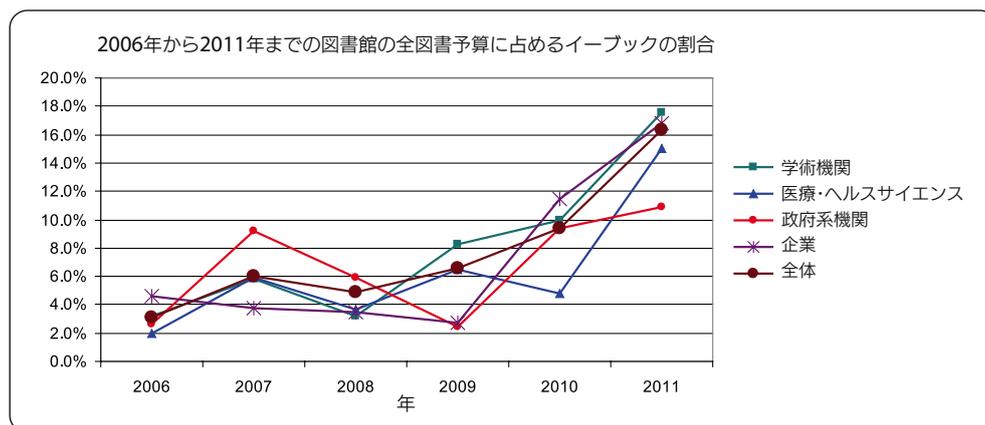


図1
全図書予算に占めるイーブック費用の割合は上昇傾向を示し、特に学術機関と医療系機関で顕著であった。(2012年年次図書館予算調査、パブリッシャーズ・コミュニケーション・グループより)

過去6年間で、イーブックは全般的に上昇傾向を示しました。2010年から2011年にかけて、イーブックが占める支出の割合は大きく伸び、全体で9.4%から16.4%へと顕著な伸びを示しました。なかでも医療・ヘルスサイエンス系の図書館では、図書予算のうち、イーブックの占める割合は2010年の4.8%から2011年には平均15%へと上昇しました。

図書館がイーブックを購入する理由とその方法

イーブックは図書館とその利用者数に数々の利点を提供しますが、なかでも図書館に足を運ぶ必要がないという便利さと、紙の書籍では必要となる物理的スペースが節約できることが大きな利点です。デューク大

▶ イーブックがなければ、本を予定通り教授に届けることはできなかったでしょう。学生たちも北京に到着するまでに電子版のテキストを使うことができました。

▶ ナンシー・ギブス (デューク大学)

学図書館で購入責任者を務めるナンシー・ギブス氏は、ある教授が中国に出張し、出張先で大学生グループとミーティングを行うのに、紙の書籍を持たないまま出かけたという話を引き合いにイーブックの利点を説明しています。

このような状況から、図書館がデジタル著作権管理(DRM)によって制限されないイーブックを利用者に提供したいのは明らかです。例えば、講義中に複数の利用者が同時に同じコンテンツにアクセスする必要がある場合は、この点が極めて重要です。DRMは、図書館が提供するイーブックの利点に影響する可能性があるため、ライブラリアンの最大の関心事になっています。DRMに関して活発な議論が繰り広げられているなかで、シュプリンガーをはじめとする一部の出版社は、図書館に販売するイーブックについてはDRMの制限を設けない決定をしています。

現在、イーブックの導入は、利用者の要望に基づき、複数タイトルを1つにまとめたパッケージか、あるいは1タイトルごとの購入のどちらかに集中しています。ライブラリアンの中には、余り利用されないイーブックに予算を費やさないう、短期貸出(short-term loans) や需要駆動型購入方式(Demand-Driven Acquisitions, DDA) などのオプションを検討している人もいます。当面は、ライブラリアンと出版社の双方で、イーブックに最適なビジネスモデルの模索が続くものと見られます。

イーブックの評価について、現状は？

図書館予算が縮小する一方で、利用者からのニーズが増大に対応する必要に迫られている中、将来購入するリソースが効果的かどうか予測するために、またそういった情報を機関の運営者に伝えていくために、既存のリソースの価値を分析することがますます重要になっています。

機関のリソース、特にイーブックのRoIを理解する上で、ライブラリアンがすぐに利用できる多くの情報は、経験談や利用者にもっと近い人々の意見に基づいています。図書館インフラがしっかり整った機関でも、イーブックについては利用し始めてから2~3年しか経過しておらず、データが不足していたり質が伴わなかったりするために制約を受けるケースがあります。米国博物館・図書館サービス機構(IMLS)が出資するライブ・バリュー・プロジェクト(Lib-Value Project) など、RoIのパラメータ決定を目的に実施されている大規模な調査の多くは学術図書館を対象にしています。

私たちのインタビューからは、利用統計データを評価することがRoI評価において最も一般的で、分かりやすい方法であることが示されました。登録処理やイーブックの広報に費やした時間などは定量化が難しいものです。利用者へのアンケート調査も一般的な方法です。利用者がどのようにイーブックに関わり、価値を認めているのか調べると、より理解を深めることができます。本調査を通じて関わったライブラリアンのほぼ全員が、誰が、いつどのような理由でイーブックを利用するのかを詳しく調査するには利用者とのコミュニケーションが重要であると述べています。

ミーガン・オークリーフ(Megan Oakleaf)氏が2010年にまとめたACRLの報告書「学術図書館の価値：包括的調査レビューと報告書(Value of Academic Libraries: A Comprehensive Research Review and Report)」は、学術図書館が価値を示すべき10の領域を示しており、イーブックの価値を追求しようとする図書館のガイドラインになり得るものです。

- | | | | |
|-----------|------------|------------|----------|
| ▶ 入学者 | ▶ 学生の在籍と卒業 | ▶ 学生の成功 | ▶ 学生の達成 |
| ▶ 学生の学習 | ▶ 学生の経験 | ▶ 教員の研究生産性 | ▶ 教員の助成金 |
| ▶ 教員の教育活動 | ▶ 機関の評判 | | |

キャロル・テノピア氏とティナ・クルザストフスキー氏は、テネシー大学ノックスビル校、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校(UIUC)、シラキュース大学、および北米研究図書館協会(ARL)の研究者やライブラリアンとともに、評価方法の理解を深め、イーブックを含む図書館のリソースがどのような利益をもたらしているかをより簡単に示せるツールの提供に取り組んでいます。ライブ・バリュー・プロジェクトとして知られる彼女らの仕事は、現在第3フェーズに入り、このコンセプトが持つ可能性と同時に難しさも示されています。



ライブ・バリュー・プロジェクトの第2フェーズでは、獲得できた助成金の資金額と、図書館の電子コレクションから得た引用文献情報とを結びつけ、研究費の申請プロセスに関わる図書館リソースの利点を調査しています(図2)。

『図書館に投資された金額を1とすると、その機関が受け取った投資効果 (RoI) は、研究費の助成金収入で見た場合、15.54:1から0.64:1の範囲にある。8ヶ国中6ヶ国で、このRoIは1:1を超えている。助成金に対するRoIは機関の目的(例えば、研究中心か教育中心か、あるいは科学/技術/医学に重点を置くか社会科学や人文科学に重点を置くか)や有力な資金源の有無によって多様である』-「大学の図書館に対する投資 第II段階 助成金申請プロセスにおける図書館の価値に関する国際調査」から引用。

	大学1	大学2	大学3	大学4	大学5	大学6	大学7	大学8
引用は助成金獲得において重要と答えた教員の割合	95.50%	94.90%	92.60%	95.10%	98.50%	94.40%	80.40%	95.85%
図書館経由で得た文献情報を引用した申請書の割合	94.50%	99.80%	83.60%	90.00%	100.00%	95.70%	83.60%	95.53%
平均助成金給付サイズ	101,596	134,416	780,174	#	#	123,731	#	139,537
全図書館予算	19,429,400	12,671,725	192,634,000	#	#	79,096,878	#	14,192,000
RoI	3.44:1	15.54:1	1.90:1	13.16:	0.75:1	1.31:1	0.64:1	1.43:1

図2

図書館リソースのRoI計算に含まれるいくつかの因子と大学の助成金獲得を結びつけた例。(大学の図書館に対する投資 第II段階 助成金申請プロセスにおける図書館の価値に関する国際調査、ライブ・バリュー・コネクトより)

多くの大学が、規模は小さくとも図書館利用者の利用行動に関する調査に乗り出しています。調査による豊富な情報を得て、イーブックの購入検討に活用することが目的の1つです。ノースカロライナ州ダーラム市にあるデューク大学は、最近イーブック戦略委員会を設立し、イーブックが利用者のニーズをどれだけ満たせるか調査して、同校のコレクション強化を進める計画を立てています。中東工科大学も、2008年に図書館にイーブックの投資効果を調査するチームを発足させ、以来調査に取り組んでいます。

今日までの調査は、イーブックを含む図書館コレクションが機関の活動を支援しているかを検証し、これらのリソースの価値測定の手段を提示しています。こうした調査から、リソースが以下のような影響を与えていることがわかりました。

- ▶ 共同研究や学際的な研究：イーブックは情報の発見を促進し(特に、関連する研究を見つけるまでに要する時間の短縮)、研究者の共同研究や学際的な研究をサポートしました。大量のコンテンツ(特に書籍とジャーナルを両方含むデータベース)を検索対象とする強力な検索ツールは、これらの学際的な研究コンテンツを見つけることに貢献しました(印刷版では不可能でした)。
- ▶ 助成金申請への影響：ジュディ・ルーサー(Judy Luther)が2008年にライブラリー・コネクトのケーススタディの一環としてイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で行い、2010年にキャロル・テノピア氏の協力を得た調査は、学術文献の引用が多い助成金申請は獲得率が高いことを示しました。図書館のコレクションを利用することは、研究者にとって引用する文献を多く入手するために極めて重要であり、特に電子コンテンツにアクセスできるかどうかの影響します。
- ▶ 研究分野での認知度向上：さらにライブラリー・コネクトの同調査では、研究者が、新しい研究文献へのアクセス増加(利用範囲の増大)が自身の研究と学生への教育の質を高めたと回答しました。教育と研究両方の向上が、機関の認知度を高め、ひいては将来の学生と教員の採用活動に役立ちます。

イーブックの投資効果(RoI)を測定する際の課題

機関が直面する最初の課題は、図書館内のRoIを定義することが難しく、ライブラリアンが「適格な条件である」と合意できない可能性があることです。ティナ・クルザストフスキー氏は、イーブックのRoIの測定には利用統計を価格と比較するなど、容易な面もあるが、定性的な面が最大の課題だと述べています。さらに、イーブック・コレクションは比較的新しい製品であり、ワークフローと方針が多様でよく変わるため、必ずしも意味のある評価にならない場合があります。

▶ 私たちは、利用統計と研究成果(発表された論文数)を毎年評価しています。特別レポートを作成し、大学当局に提出します。利用統計を用い、ダウンロードされた1論文当たりのコストを算出します。

▶ エムレ・ハサン・アクバイラク(中東工科大学図書館)

購入と収集

RoI測定に必要な最初のステップは、図書館がイーブックを購入する直接経費の計算ですが、ここで既に課題が見つかります。イーブックの価格を採用するだけでは不十分で、購入してから研究者がイーブックを使えるようになるまでに必要な時間の経費も考える必要があります。これには、MARCレコードを取り込む時間、検索データベースに登録しメンテナンスする時間、導入リソースの宣伝をし、利用者を教育し、質問に対応する時間も含まれます。こうしたことも考慮しないと、図書館にかかる費用の全体像を捉えることは困難です。

イーブックの購入時に起こるもう1つの課題は、利用できる購入オプションが限られていることです。ライブラリアンは、大きな分野別コレクションを購入するか、それともタイトルごとに選んで購入するかの問題にしばしば直面します。機関の研究者に合わせた分野別コレクションを簡単に取得する考えに惹かれますが、一部の図書館ではそのこと自体が問題を起す場合があります。今までのケースとして、イーブック・コレクションに含まれるタイトルを選択するオプションがないと、あまり使われないタイトルが出てくる可能性があります。

中東工科大学図書館はこれと同じケースであり、より柔軟性のある購入がいずれ可能になることを期待しています。また、大規模なコレクションを持つと、利用できるタイトルの範囲を利用者に宣伝するのにライブラリアンが多大な時間と労力を費やすかもしれません。一方で、タイトルごとに選んで購入する場合には、評価、選択や事務処理に手間がかかり、非効率なことがあります。そこで、需要駆動型購入方式 (Demand-Driven Acquisitions, DDA) と短期貸出 (short-term loans) を検討する図書館が増えています。これについてコメントしたライブラリアンは、この提供方法が他のビジネスモデルよりも図書館のRoIを向上させるかどうか判断するには時期尚早であっても、あらゆるオプションを検討することが大事だと感じていました。

一貫性の問題

▶ **COUNTER** に準拠し、利用されないタイトルを含めて統計を提供してくれる出版社が増えれば、非常に有益でしょう。これは図書館のRoIの測定方法を分かりやすく変えてくれる1つの方法です。

▶ **ティナ・クルザストフスキー**
(イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校)

利用統計はRoIを理解する基本となります。イーブックの場合、バンダー間の一貫性が非常に乏しく、多くのジャーナルがCOUNTER準拠の利用統計を提供するのに対し、既存のイーブックの大半は独自のプラットフォーム固有の利用統計指標を使っています。ライト州立大学のスー・ポランカ氏が指摘しているように、同じ出版社のイーブックでも異なるプラットフォームから提供されると、例えばオハイオ・リンクの電子ブックセンター (EBC) とシュプリングのサイトでは利用数が異なります。ライブラリアンは、手作業で利用統計を比較していますが、これは相当な忍耐力のいる作業です。

クルザストフスキー氏も、もし出版社の利用統計がCOUNTER準拠であるなら、「未利用のタイトル」を追跡することが重要であると述べています。なぜならそれらを除外すると統計情報に歪みが生じ、ライブラリアンが利用している情報が変質してしまうからだ、と説明しています。

利用統計と同様に、様々なユーザーインターフェースも、ライブラリアンが最初に使い方を学んでから利用者に指導をするため、時間がかかり、RoIの測定に影響を及ぼします。各プラットフォームの機能がどこも同じになることをライブラリアンは歓迎するでしょうが、絶えずユーザー体験を改善したい出版社にとっては問題でしょう。

ユーザーの利用行動を理解する

イーブックは書籍全体よりはチャプター毎に使われることが多いのですが、現在の検索メカニズムと利用統計はこれを反映していません。現在SpringerLinkではチャプター検索が可能ですが、多くの出版社ではこのレベルの検索機能をまだ導入していません。チャプターレベルでもタイトルでも迅速にイーブックを検索できるようにすることは、利用者がイーブックに慣れるのに極めて重要です。

利用統計も、利用者がチャプターレベルでコンテンツを入手する状況を反映する必要があります。インタビューでは、複数のライブラリアンが利用の状況を、「何を」だけでなく「どのように」や「いつ」も含

▶ **どのくらいの時間利用者がイーブックにアクセスしていたか、彼らがセクション (フルテキスト) をダウンロードし、ノートを取っていたのか、どのように検索していたかなどの利用状況を集約した「スナップショット」があると非常に役に立ちます。これがあると利用者がイーブックのどこを評価しているかがわかります。**

▶ **ナンシー・ギブス** (デューク大学)

めて理解する必要性を訴えていました。これは、利用者がどこでコンテンツを見つけ、イーブックを利用するのにどれだけ時間を費やしたか、さらにどんなタイプのツールを利用したかにまで及びます。

利用者がイーブックのセクション（フルテキスト）を印刷してしまうとそこで情報は失われるため、ダウンロード後の追跡はほとんど不可能です。皮肉なことに、デジタル著作権管理（DRM）は、印刷を禁止したり、コンテンツのコピー＆ペーストを制限したりすることで一定の解決策を提供しますが、同時にリソースの利用も制限する可能性があります。DRMを付けないイーブックのROIは、DRM付き（利用制限のある）のイーブックよりも大きいと一般に信じられていますが、印刷版の利用統計が得られないのは残念です。

変化するライブラリアンの役割

あらゆるコンテンツが電子へ移行するのに伴い、ライブラリアンの役割そのものも変化しています。例えば、10年前に比べてずっと多くの時間が技術的な問題に割かれるようになりました。ライブラリアンは今ではコンピューターのスキルを持つことが求められ、利用者に電子リソースを効果的に使う方法を教え、コンテンツの価値を維持することが求められています。

リソースの価値を確立するために、図書館は出版社の支援を得ながら、ウェブサイトでの宣伝、図書館に貼るポスター、利用者へのEメールなどで、提供するコンテンツの宣伝活動を盛んに行っています。単純なインターネット検索ではなく、効率的で信頼できる正確な情報を得られるよう、図書館のリソースに利用者の注意を向ける努力が必要です。

最後に、比較できる印刷版の利用データが乏しいことから、電子コンテンツへの移行の効果を証明する難しさがあります。印刷版の利用は貸出件数で把握できますが、電子版の利用データとの比較は困難です。ライト州立大学のスー・ポランカ氏は、こうした情報がわかったとしてもどのように書籍が利用され、どのくらいの量が利用されたかはわからないと指摘しています。

投資効果とイーブックの将来

機関に対して図書館の価値を示す活動は今後も続くでしょう。ライブラリアンは、資料の利用状況を調べるだけにとどまらず、図書館の価値を完全に理解し、購入決定に足り得る情報を機関の運営者に示せるよう、より包括的なROI調査に取り組む必要があります。

急成長するイーブック

15年の歴史を持つ電子ジャーナルに比べると、イーブックは比較的新しく、今後急速に成長していくものと思われます。イーブックはまだ初期の発展段階にありますが、今後数年で、ジャーナルと同じレベルにまで印刷版から電子版へのシフトが進むものとみられます。そうなれば、教員と学生による電子版の利用は劇的に拡大することになるでしょう。

- ▶ 電子であるからこそ、人々はイーブックで利用できる情報に大きな期待を寄せます。私たちは、イーブックに比べて、図書館にある印刷版がどのように活用されているかは限られた情報しか持っていません。
- ▶ スー・ポランカ（ライト州立大学）

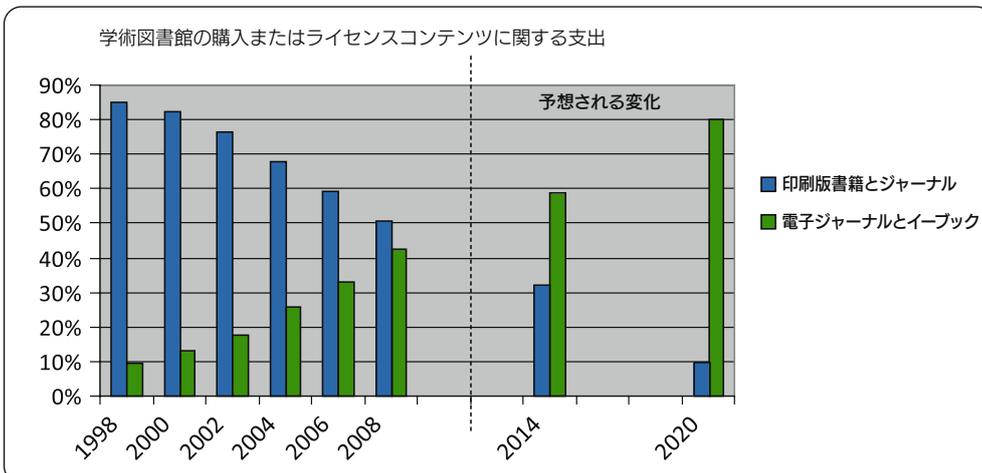


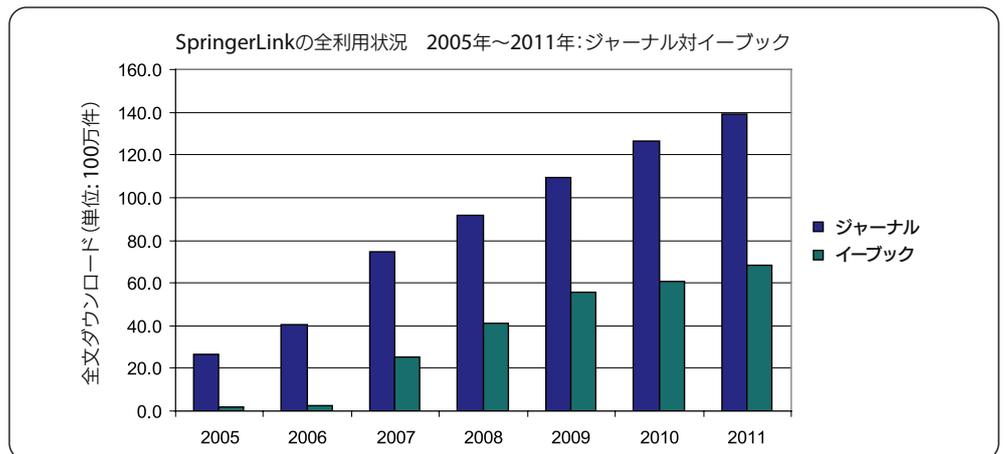
図3 学術図書館の支出における、2020年までに印刷版から電子版にシフトする変化の予想。
 (米国の大学図書館におけるイーブックと電子ジャーナル: 現状と将来予想、ジェームズ・ミカルコ、OCLCリサーチ、米国教育省、NCESの学術図書館調査1998年～2008年からコンスタンス・マルパス、OCLCリサーチが抽出)

過去の教訓

この調査で概略を示した課題の多くは、電子ジャーナル普及の初期にもみられ、解決するには一定の期間が必要でした。例えば、ジャーナルが電子の形態で初めて登場したときに、利用統計は分析するのが難しく、COUNTERという基準も存在しませんでした。集めるべき統計データについてコンセンサスができるまでに数年を要し、最初のガイドラインが公表されたのは2003年のことでした。COUNTERの要件を満たす利用統計を標準化するためにはテクノロジーが進化し、様々なプラットフォームから統計を集約するシステムの開発が必要でした。以下の図4が示すように、SpringerLinkのイーブック利用は2005年以降劇的に増加し、今後も増加傾向が見込まれることから、より多くの図書館がイーブックを導入し始めるきっかけになるかもしれません。

図4

SpringerLinkのイーブック利用は過去6年間で劇的に増加し、2011年のダウンロードは6,850万件に達した。今後も急速な成長が続くものと予想される。(SpringerLinkのデータ、2011年より)



出版社は学術図書のオンライン化を強く推進しながら、ライブラリアンが機関にその価値を証明するには欠かせないイーブックのCOUNTERガイドラインに準拠していくことで、より良い方向に向かっていくでしょう。さらに、ライブラリアンは利用統計を評価するのに、分野別コレクションやタイトルごと、あるいはチャプターごとであっても、最も有効な方法を探っていく必要があります。プラットフォームの全般的な一貫性は重要な要素で、ライブラリアンが利用者のために素早く情報を見つけて分析でき、また利用者の研究速度を上げたいというニーズを満たすためにも必要です。オンラインの登録によると、現在37のオンライン・コンテンツ・プロバイダー(出版社とアグリゲータ)が、「ブックとレファレンス・ブックに関するCOUNTERプロジェクト実務規範リリース1(The COUNTER Code of Practice, Books and Reference Works: Release 1)」に準拠しています。さらに、COUNTERプロジェクトは2012年6月に、ジャーナルとブックを含むあらゆる電子リソースの規約を更新し、「電子リソースのためのCOUNTER実務規範リリース4(The COUNTER Code of Practice for e-Resources: Release 4)」を発表しました。イーブック利用レポートに影響するこれらの更新情報例を以下に示します。

- ▶ 特定のベンダーによるレポートの中で、ある書籍がどのような種類のセクション(フルテキスト)をカバーしているかを定義
- ▶ 任意で提供される新たな利用レポートとして、同一のプラットフォームで刊行されるジャーナル、ブック、レファレンス・ブックの全文の利用統計を、1つのCOUNTERレポートとして示す「タイトル」レポート

COUNTERプロジェクトは今後もイーブックのガイドラインを更新する方向であり、出版社は規範に準拠するように利用統計を積極的に調整するとともに、業界全体で基準をより良くするようフィードバックし続けることが重要です。

更に利用者を理解する

ライブラリアンと出版社は協力し合い、イーブックの価値を利用者に示し、更に利点を発見する新たな調査方法を推進していかなくてはなりません。アンケート調査による利用者からのフィードバック収集は引き続き重要であり、利用行動を深く理解するには最良の方法と思われます。イーブックの利用者がチャプ

ターレベルかタイトルレベルで検索して読んでいるのかといった傾向や、内在する課題は、こうした評価方法を通して理解が進みます。利用の状況から、ライブラリアンはどのような種類のデータが、あるリソースを評価するのに最も有益なのかを確認でき、それを出版社にフィードバックすることで、最終的には利用データの精度が深まるなど改良が進むことになります。

さらに、モバイル機器とその利用者の数が増加していることから、利用者が使用する広範なデバイスでイーブックが利用できることが重要です。利用者が読む時に使うデバイスによって利用が制限されるようではイーブックの成長と価値は限定されることになります。そのため、図書館は購入する前にイーブックの内容とその提供方法を検討する必要があります。

ともに成長する

イーブックの投資効果 (RoI) と利用者によるイーブックの活用について理解を深めることは、ライブラリアンと出版社の双方にとって等しく重要なことです。分析方法と一緒に改良し、利用者のニーズに応えるよう調整していくことが、迅速な前進には欠かせません。

出版社は、ライブラリアンによる利用者教育を支援する必要があり、チャプターレベルの検索などコンテンツへのアクセスと検索・発見を容易にできるように、自らもイーブックのプラットフォームを強化し続けなくてはなりません。イーブックの価値は、プラットフォームが高度な機能を備えたときに初めて利用者の目に明らかになるのです。

まとめ

以上のエビデンスは、イーブックが高品質の研究成果を生み、機関へ利益をもたらす重要なツールとして長期的に高い価値を持つことを示しています。ティナ・クルザストフスキー氏は、2011年に書いた論文「学術図書館と利用者にとってのイーブックの価値の評価」の中で、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で導入されたイーブックが、同校の図書館に次のような具体的なベネフィットをもたらしたと述べています。

- ▶ コンテンツ購入コストが安い
- ▶ 利用1件当たりのコストが安い
- ▶ 貸出と保管に要する業務時間の短縮
- ▶ 保管に要する物理的スペースの削減
- ▶ 利用者がアクセスに要する時間の短縮(24時間どこからでもアクセス可能)
- ▶ 印刷版よりも1タイトル当たりの利用頻度が高い
- ▶ より広範なコレクションを導入できる

ライブラリアンが導入戦略とイーブックの価値を機関の運営者に伝えるためには、現在進行中のプロジェクト、なかでもライブ・パリュー・プロジェクトとエルゼビア社のライブラリー・コネクト (Library Connect) 調査の成果を注視していくことが重要です。図書館のコレクション、特に電子的に提供されるコンテンツがどれだけの価値を教員と学生にもたらすのかと機関の運営者に問われたときに、この文献を示せるように前もって準備しておく必要があるでしょう。イーブックのコレクションの拡大とともに、教員と学生へのアンケート調査を今後2~3年定期的に行えば、コミュニティのニーズを満たし、図書館管理者はコンテンツの導入とサービスを適切に管理できるようになるでしょう。調査した情報を出版社にフィードバックすることも、利用者のニーズに対応し、ライブラリアンがより包括的なRoI分析に必要なデータを入手できることに繋がります。

有り難いことにこの分野では非常に質の高い調査が行われていますが、投資効果を追い成功事例を学んでいくことが鍵となります。さらに、こうしたリソースの価値を調査し理解することができるという確信と、その努力は、図書館がより発展する方向に進めるよう、自らを、また機関の運営者を動かすことにつながるでしょう。

執筆: ケイト・ララ、ジャネット・フィッシャー、クリス・ミラキアン(パブリッシャーズ・コミュニケーション・グループ)

▶ 利用者がどのようにイーブックを活用しているのか、つまり印刷したのか、ダウンロードしたのか、ハイパーリンクをクリックしたのか、特定のページを読んだのか、それとも検索したのかかわれば理想的です。利用者がどのようにコンテンツを活用しているのかを理解すれば、購入決定やインターフェースの設計に役立ちます。

▶ スー・ボランカ (ライト州立大学)

参考文献

2012 Annual Library Budget Survey, Publishers Communication Group

Chrzastowski, Tina. "Assessing the Value of Ebooks to Academic Libraries and Users." In 9th Northumbria Conference. University of York, York, United Kingdom, 2011.

Luther, Judy. "University Investment in the Library: What's the Return?" Library Connect. Elsevier, 2008. <http://www.ila.org/advocacy/pdf/University_investment.pdf>

日本語版: 大学の図書館に対する投資: その見返りは? イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校のケーススタディ <<http://japan.elsevier.com/news/lc/lcwp0101jpn.pdf>>

Michalko, James. E-books and E-Journals in US University Libraries: Current Status and Future Prospects. OCLC Research Derived by Constance Malpas, OCLC Research, from US Dept of Education, NCES. Academic Libraries Survey, 1998-2008

Oakleaf, Megan. The value of academic libraries: A comprehensive research review and report. Association of College and Research Libraries, American Library Association, 2010.

Tenopir, Carol. "Measuring the Value of the Academic Library: Return on Investment and Other Value Measures". The Serials Librarian. Vol. 58, Iss. 1-4, 2010.

Tenopir, Carol., with Amy Love, Joseph Park, Lei Wu, Andrea Baer, and Regina May. "University Investment in the Library, Phase II: An International Study of the Library's Value to the Grants Process." Library Connect. Elsevier, 2010.

< <http://libraryconnect.elsevier.com/university-investment-library-phase-ii-international-study-libraris-value-grants-process> >

日本語版: 大学の図書館に対する投資 第II段階: 助成金申請プロセスにおける図書館の価値に関する国際調査 <<http://japan.elsevier.com/news/lc/2010-06-whitepaper-roi2-jpn.pdf>>

The COUNTER Project <<http://www.projectcounter.org/>>

The Lib-Value Project. <<http://libvalue.cci.utk.edu/content/lib-value-project>>

シュプリンガーのイーブック白書



Vol.1
電子ブックが大学図書館
にもたらすもの
その価値とコスト
(2007)



Vol.3
ビッグディールによる
イーブック導入:
利用統計調査
リバプール大学の
イーブック研究 Part 1
(2011)



Vol.2
ユーザーの声を
まとめました
(2009)



Vol.4
リバプール大学の
イーブック利用者
アンケート
リバプール大学の
イーブック研究 Part 2
(2011)

詳しくは弊社ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.springer.jp/librarian/promotiontool/>

図書館員の皆様へ

シュプリンガー・イーブック・コレクション

シュプリンガー社が発行する、**Copyright Year**(書籍の発行年)が**2005年以降のイーブック(英語)**へのアクセスを提供します。13の分野別にパッケージ化しています。お客様のニーズにあわせて、全分野 または必要な分野をお選びいただけます。(Landolt-Börnstein、SpringerProtocols は含みません。)

シュプリンガー・イーブックスの利点

- ▶ **買い切り**：一度きりのお支払いで、カレントの電子版契約がある限り継続的に無料でアクセスできます。
- ▶ **NACIS-CATP MARC**(日本版MARCレコード)を無料提供。図書館カタログに集中化が可能です。
- ▶ 冊子と比べて、シュプリンガーのコンテンツへのアクセスが劇的に拡大し、図書館サービスの向上につながります。
- ▶ 書庫スペースの節約、破損や盗難の恐れがありません。
- ▶ **COUNTER**準拠の利用統計データを提供します。ジャーナルと同じプラットフォーム(SpringerLink, Springer for R&D)で提供し、相互リンクしていますので、利用増進を期待できます。

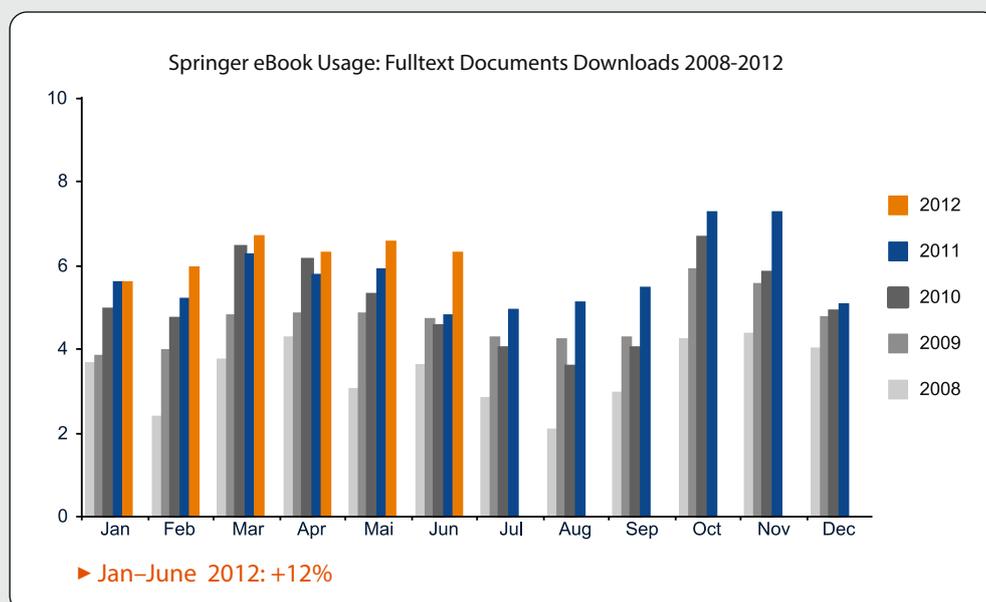


分野一覧

- ▶ 行動科学
- ▶ 生物医学・ライフサイエンス
- ▶ ビジネス・経済学
- ▶ 化学・材料科学
- ▶ 情報科学
- ▶ 地球科学・環境科学
- ▶ エネルギー学
- ▶ 工学
- ▶ 人文、社会科学・法学
- ▶ 数学・統計学
- ▶ 医学
- ▶ 物理学・天文学
- ▶ 実用コンピューティング

学術書出版点数で最大規模を誇るシュプリンガーでは、2005年に出版する全てのブックの電子化を開始し、2012年10月現在、シュプリンガー・イーブックスのコレクションは55,000点に達しています。海外ではアメリカをはじめヨーロッパ、中国などでイーブックが普及し、また日本においても、大学をはじめとする専門図書館が積極的にシュプリンガーのイーブック導入を進めています。

イーブックを導入することによって、より良いサービスを維持しつつ経費節減も実現させようという図書館が増えていきます。それに伴い、シュプリンガー・イーブックスのチャプターダウンロードも増加の一途をたどっており、2011年の1月～6月と2012年の同月とを比較すると12パーセント増加しています。(下図)



For more
information about
the Springer
eBook Collection

▶ **Springerプラットフォーム (SpringerLink, Springer for R&D)
サポート情報**

- 日本語版利用説明書 (クイックリファレンス) のダウンロード
- 管理者用マニュアルのダウンロード

▶ **MARCレコードのダウンロード**

シュプリンガー・イーブック・コレクションの書誌データを、全分野または分野別パッケージ毎にダウンロードし、お使いのOPACに取り込んでいただけます。

イーブックの露出の機会が増え、利用の増加につながります。是非ご活用ください。

▶ **図書館様向け広報用ツール**

イーブックやジャーナルのポスター、フライヤー等をダウンロードしていただけます。機関内での広報にお役立て下さい。

▶ www.springer.jp/librarian へアクセスして下さい。

